

発掘現場から⑨

墨書土器のおはなし

去年の4月から始まった門前上屋敷遺跡・門前鎮守山城跡の発掘調査は、1月31日によやから終了しました。12月に入ってから連日の大雪に見舞われ、現場作業はついふんと苦しめられました。ベルトコンベアーはスリップして役に立たなくなり、測量機器はときどき動作不良になりますし、写真撮影もできません。でも調査員にとって一番つらいのは指先がさかんで、文字が書けなくなることです。世の中はずいふんとデジタル化が進みましたが、私たちの仕事の基本はスコップで手掘り、鉛筆で手書きなのです。



写真1 石垣の様子

ていきました(写真1)。この石と石との間から、墨で文字が書かれた土器のかけらが出てきました。このような遺物は「墨書土器」と呼ばれています。最近では倉吉市の伯耆国庁跡の調査で「山守酒殿」と墨書された土器が出土して大きな話題となりました。文字は通常、紙や板など燃えやすく、腐りやすいものに書かれるのがほとんどですから、墨書土器は発掘調査で得る



写真2 墨書土器

ことのできる貴重な資料なのです。古文書と照らし合わせることで、遺跡の性格を決定する証拠にもなります。

今回出土した墨書土器の文字は杯(碗形の容器)の裏側に書かれていて、ひとつは「普庵」もうひとつは「智光」と読むことができます(写真2)。土器に書かれた文字、あるいは記号は、その持ち主の名前や使われていた施設、あるいは官職を示すことがあります。「普庵」は建物の名前でしょうか。「智光」はなにやら人名のような雰囲気がありますが、名和一族に智光という名の人物は残念ながら見当たりませんでした。そのほか



写真3 「佛」の文字

に、地下式横穴と呼ばれる遺構から出土したたくさん土器にも墨書がありまして、「普」「祖」「佛」という文字を確認しています(写真3)。地下式横穴とは、地面に出入り口の竪穴を掘り、そこから横に向かって部屋を作り出したもので、埋葬に使われたものとされています。部屋の天井は崩落していました。

鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所
〒689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5
電話 0859-54-2671